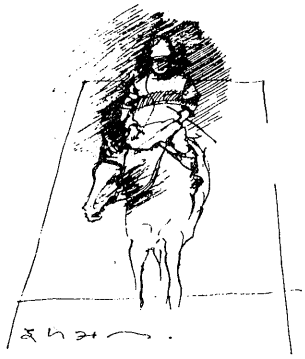


72年のフリーハンデ

46年は牝馬のトウメイが天皇賞、有馬記念を連覇して、戦後最強の牝馬と評価されて64キロ。しかし、47年は古馬が不作で、トップウエイトのヤマニンウエーブが62キロ。一方、四歳陣はかねてから充実しているとの声が高かったが、菊花賞・有馬記念のイシノヒカルが63キロ、これは前年のヒカルイマイ、45年のタニノムーティエと同斤である。そして関西の三強ロングエース、ランドプリンス、タイテエムが1キロ差でつづく。

■出席者■

吉田彰（本部）
藤田明徳（本部）
覧邦男（本部）
近藤俊輔（中山）
西田秀夫（栗東）
田中邦夫（栗東）
各務富也（栗東）
柴田裕（栗東）
司会／編集部

四歳馬

牝馬はどの辺に

――昭和四十七年から優駿主催で年度代表馬、各最優秀馬の選出を始めましたが、すでに年度代表馬にイシノヒカル、以下各最優秀馬が決定しています。今回フリーハンデを作っていただく上に、このことも決して無関係ではないと思います。

それでは四歳馬ですが、クラシック馬は皐月賞馬ランドプリンス、ダービー馬ロングエース、菊花賞馬イシノヒカルの三頭がいますが、上位にはこれらの馬がくると思いますが……。

吉田　上位はその三頭だろう。ぼくはイシノヒカルがトップ、次がロングエースと付けた、

田中　イシノヒカルのトップは、文句のないところだ。四歳で有馬記念に勝つというのは、なかなか難しいことなのだから。この次はやはりロングエース、ランドプリンスといったところだ。

近藤　イシノヒカルとロングエースとは、ほとんど力量的には接近している。ここでも差を付けることはないと思うが。イシノヒカルは勝ったといっても、単発的な感じがあって、絶対的な強さとか人気というものが、ないように思われるんだ。

柴田　年間通してのクラシック路線を見ると、イシノヒカルは皐月賞2着、ダービー6着。それと秋の充実ぶりを見ると、かなり高く評価していい。

覧　イシノヒカルの単独トップでいいでしょう。

――イシノヒカルが単独トップですが、46年はヒカルイマイ、45年がタニノムーティエが単独トップで、それぞれ63キロでした。ではイシノヒカルはいくつですか。

吉田　四歳で有馬記念に勝った。ヒカルイマイ、タニノムーティエよりも一キロ上か同列か。

西田　ヒカルイマイ、タニノムー

ティエよりも下だと思う。

藤田　有馬記念に勝ったけれど、47年は古馬陣がやや不振であったということもある。

田中　年間通じた活躍度から見れば、春に無敵の快進撃をやってのけたタニノムーティエよりも下だ。イシノヒカルの金星は菊花賞と有馬記念だけだ。

吉田　言い方によっては、有力馬の力量が接近していたということもいえる。するとイシノヒカルをヒカルイマイ、タニノムーティエより下げて62にすると、あとに続くロングエース、ランドプリンスらのハンデに、無理が生じてこないか、四歳の水準が高かっただけに。

田中　45年の菊花賞馬ダテテンリュウが、有馬記念でスピードシンボリ、アカネテンリュウと、クビ、ハナのきわどい勝負の3着で61だった。それと比べても1キロ上の62でいいのではないか。

西田　46年はニホンピロムーテーが神戸杯、京都新聞杯、菊花賞と三連勝して62キロだった。イシノヒカルも同じでいいのでは。

田中　ダテテンリュウよりはちょっと上、タニノムーティエ、ヒカルイマイよりはちょっと下、というところじゃないですか。

西田　44年のダイシンボルガードが、ダービーだけで60キロだった。それから考えても62がいいところだと思う。

吉田　春の成績からいけばヒカルイマイ、タニノムーティエよりは下だろうが、ヒカルイマイ、タニノムーティエは春だけの馬だった。イシノヒカルには、春に皐月賞2着がある。

筧　ヒカルイマイ、タニノムーティエより評価は低いだろうが、有馬記念の勝ちは高く評価したい。

吉田　有馬記念の評価はむずかしいが、出走馬の顔ぶれは、メジロアサマ、メジロムサシ、ベルワイドと、三頭の天皇賞馬が出ていた。イシノヒカルの評価は高くなる。

田中　有馬記念の勝ちっぷりはよかったが。

吉田　四歳で古馬を負かした力量は、高く評価できる。47年の年度代表馬にイシノヒカルが選ばれたのも、やはり有馬記念優勝が高く評価されたのだろう。

――　やはり四歳牡馬で、年度の総決算有馬記念に勝ったのは初めてですから。

藤田　イシノヒカルは63でいい。62では後に続くロングエースらの評価が、かなり難しくなるから。

――　それではイシノヒカル63。次はロングエース、ランドプリンスがくるでしょうが。

西田　ロングエースとランドプリンスは、同斤でいいんじゃないですか。秋にはロングエースは、ランドプリンスに先着されているから。

田中　この二頭の比較は、レースの格をどう見るかだけだ。実力的にはほとんど互格だ。

柴田　ランドプリンスとロングエースの対戦成績は、2勝1敗でランドプリンスですが。

――　ロングエース、ランドプリンスは62の同列でよろしいですか。

近藤　皐月賞よりもダービーの方が格は上。その意味でダービー馬ロングエースを1キロ上に見たいと思う。馬の力量は同じだとは思うけど。

筧　ロングエースは、皐月賞前の弥生賞に勝ってることもある。

吉田　皐月賞よりもダービーの方が、格上のことは確かだ。ロングエースは皐月賞ではランドプリンスの3着だったが、ダービーを勝ってるだけに。

――　ロングエース62、ランドプリンス61ですね。

各務　いいでしょう。

藤田　タイテエムは1キロ下の60でいいか。

筧　春にはスプリングSでヒデハヤテを破り、秋は神戸新聞杯、京都新聞杯と連勝して、力の差はないといっても、クラシックレースでは勝てなかったのだから、60というのは妥当なところでしょう。

――　上位四頭は決まりましたが、そのあとは、かなり離れているようですが。

吉田　春だけの成績から見れば、故障で戦列を離れたヒデハヤテがいるが。

近藤　ヒデハヤテの取扱いは問題になるところだ。その他にはハクホオショウ、ランドジャガーあたりか。

西田　上位四頭の次にはヒデハヤテを置きたい。中京のきさらぎ賞を勝ち、東上した京成杯では、ランドプリンス以下に圧勝している。

吉田　京成杯の頃には、ダービーと同じ57で競馬をしてましたね。

西田　ハクホオショウ、ランドジャガーは、ヒデハヤテの1キロ下と見てるが。

藤田　ハクホオショウは、カブトヤマ記念に勝っている。そのほかダービーは4着、スプリンターズS、オールカマー、クモハタ記念がそれぞれ2着。

吉田　ダービーではイシノヒカルに先着している。

――　裏番組とはいえ、カブトヤマ記念での時計はいいですね。菊花賞に出ていたら、いいとこはあったんじゃないか、と思えたくらいだった。

田中　ハクホオショウが菊花賞に出なかったことが、不思議なくらいでしたよ。

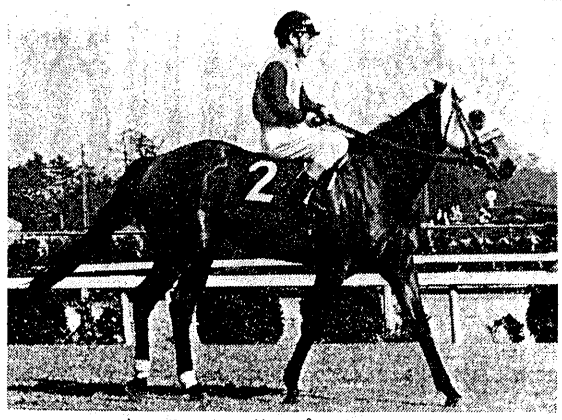
筧　春にはNHK杯でランドジャガーの2着、ダービーが4着と一応の成績はある。秋は古馬に混ってもいい競馬をしている。

藤田　昨年の古馬は、当てにならないといってもね。

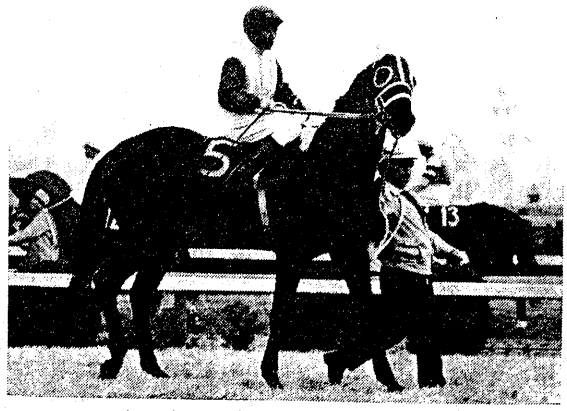
柴田　ランドジャガーは、NHK杯はテン使いで勝った。

田中　ランドジャガーとヒデハヤテは、並べてもいいのでは。ハンデ

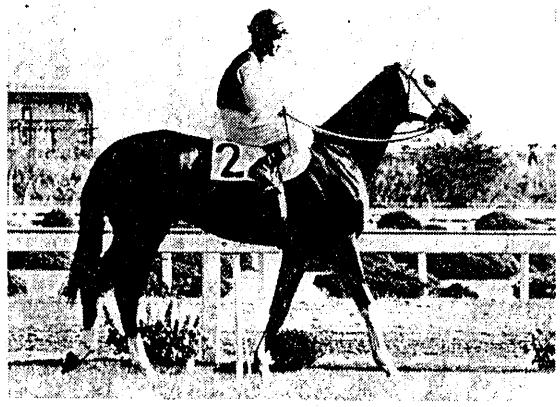
四　歳　馬



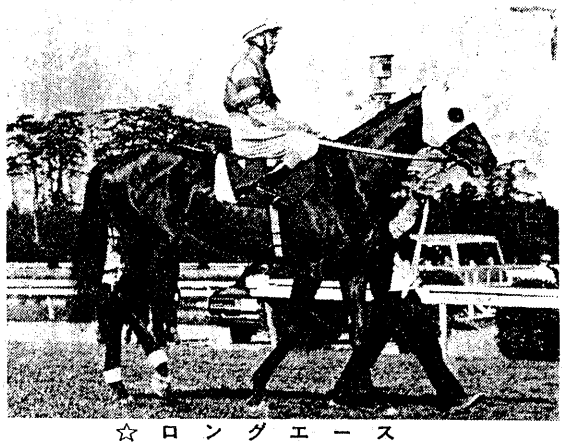
☆ランドプリンス



☆イシノヒカル



☆タイテエム



☆ロングエース

はタイテエムから2㌔差か。

筧　タイテエムからは、3㌔差はあるんじゃないだろうか。

西田　2か3かというところだが、46年はベルワイド、メジロゲッコウ、ヤシマライデンが57だった。ハクホオショウもランドジャガーも、この辺がいいところだろう。

田中　57にランドジャガー、ハクホオショウ、ヒデハヤテを並べたら。

筧　秋の充実ぶりから見たら、ハクホオショウを一㌔上に見たいが。

田中　ダービーでもランドジャガーには先着している。ハクホオショウは58か。

西田　58というのは行き過ぎじゃないかな。3㌔差はある。

藤田　3㌔も差があるだろうか。

西田　46年から比較しても、3㌔はあると思うな。

筧　ヒデハヤテはハクホオショウ、ランドジャガーよりも1㌔下ではないか。

田中　ヒデハヤテを低く見てはいけない。同じでいいと思う。

筧　ヒデハヤテは皐月賞には出られなかった。年間通して見れば1㌔下ではないか。メジロゲッコウが春に重賞を連覇したのはヒデハヤテと同じだけど、メジロゲッコウは皐月賞まで出て5着で57だった。ヒデハヤテはその皐月賞にも出走できなかった。年間通じて上位で競馬している馬と比べて、少なくとも下に見なくてはならないと思う。

西田　そういう見方をすれば、ヒデハヤテはクラシックには一回も走ってない。やはり1㌔下か。

――それではハクホオショウ、ランドジャガーが57、ヒデハヤテ56です。他に56の馬は。

田中　ソロナオールは。

吉田　ソロナオールよりもスガノホマレの方が上だろう。日本短波賞ではイシノヒカルを破り、中京のCBC賞ではレコード勝ちした。

近藤　スガノホマレの56はいいところだ。

藤田　ソロナオールは重賞の勝鞍こそないが、イシノヒカルの有馬記念を評価するなら、その3着に入ったことで、そうは下げられないだろう。

筧　タイホウシローも56でスガノ

ホマレと並べられないか。

吉田　スガノホマレの方がちょっと上だろう。タイホウシローはセントライト記念に勝ったが、菊花賞ではスガノホマレが先着している。

田中　そのタイホウシローにソロナオールは、京都新聞杯、菊花賞、でも先着している。秋はセントライト記念、京都新聞杯、菊花賞、有馬記念に4回3着を続けた。平均して強いメンバーの中で走っている堅実さは、56に入れてもおかしくない。

筧　日本短波賞ではイシノヒカルを破り、年間の活躍度では、スガノホマレはタイホウシローを上回っているが。

田中　やはりセントライト記念というのは重味があると思う。タイホウシローも56でスガノホマレと同列でいい。

藤田　それに中京のCBC賞の相手は、そう強くなかったし。

西田　阪神大賞典のハマノパレードはここに入らないか。

田中　阪神大賞典では、天皇賞馬ヤマニンウエーブを破った。

吉田　その星は光るが、ヤマニンウエーブを破ったことをどう評価するかだ。

柴田　ハマノパレードは、阪神大賞典だけです。やはり一キロ下だろう。55でいい。

――この辺で牝馬で入るのは。

筧　牝馬ではアチーブスターは、どの辺に評価するか。

田中　アチーブスターとタカイホーマの比較になると思う。

西田　アチーブスターが一キロ上だろう。

田中　46年はタイヨウコトブキがビクトリアC、阪神牝馬特別と連勝して55だった。それなら桜花賞、ビクトリアCに勝ったアチーブスターは、1キロ上の56でいい。

近藤　タカイホーマ、アチーブスター、トクザクラ、タケフブキなどは55で並べられないか。

筧　タカイホーマはクィーンC、オークストライアル、クィーンSに勝ち、オークス2着、短波賞ではイシノヒカルに続いて3着に入った。実力ではタカイホーマが一番だと思うが、残念なことにクラシックの勝鞍がないですね。

田中　やはりクラシックの桜花賞、牝馬の菊花賞といわれる、ビクトリアCを制したアチーブスターは一キロ上です。クラシックはやはり重いんだ。

（以下略）

古馬

ムサシ、アカネの評価は

――47年の古馬界は傑出馬がなく大変な混戦模様でした。はたしてトップの馬はどれか、大変に難しいようですが。

西田　過去のようにトウメイとかスピードシンボリといった、図抜けた馬がいないだけに、これは難しい。

藤田　実力からいけばトップはメジロアサマではないか。

筧　メジロアサマのトップは無理だろう。

藤田　しかし出るレースに、かなりの制限があったが。

筧　6戦2勝という戦績を見るとトップではない。重賞がアメリカJCCしかない。

田中　有馬記念では古馬は勝てなかったので、トップは天皇賞馬から選ぶのが妥当ではないか。

柴田　では、春の天皇賞馬ベルワイドか。

田中　ベルワイドは、そう高くは評価できない。

吉田　天皇賞まではよかったが、その後がいかにも悪いという印象がある。そうすると、秋の天皇賞馬ヤマニンウエーブが浮上してくる。

――年間通してはヤマニンウエーブが、平均した走り方をしています。

西田　ヤマニンウエーブは、春に条件特別に2勝してオープン入りした。その頃から重賞にも挑戦するようになっても、堅実に走っていて、秋に京都記念、天皇賞と連勝した。ヤマニンウエーブが単独トップでいい。

吉田　斤量は四歳のトップよりは下になるが、1キロ下か。

田中　例年に比べて弱かった古馬陣ということで、2キロ差の61では。

西田　46年はメジロアサマは63だった。

田中　よくて62か。

西田　ヤマニンウエーブの堅実な成績から、62でもいいだろう。

――ヤマニンウエーブがトップで62キロ。次はどの馬か。

吉田　次はベルワイド、メジロアサマ、ジョセン、アカネテンリュウなどがくる。

藤田　アサマが次に入るだろう。

田中　ベルワイドも、このあたりに置かないといけない。春の天皇賞では、キームスビィミーを破っている。

西田　キームスビィミーは、やはり実力馬だ。それを天皇賞で破っているので、あまり下にできない。

田中　ジョセツとメジロアサマは、並べられないか。46年にトウメイが天皇賞、有馬記念と連覇して64だった。それから3キロ差の61にできないか。

吉田　あの不良馬場での目黒記念の勝利がある。

藤田　メジロアサマは、出走できるレースにも制限があった。ジョセツは目黒記念に勝ったが、相手がラファール、スモールキングといったメンバーで、メジロアサマよりは一キロ下だろう。現にメジロアサマはオープンレースだったが62キロで勝っている。

筧　それではベルワイド、メジロアサマが61の同格では。

田中　いいところだ。そうなると

高松宮杯でアサマに完勝したジョセツはどこに置くか。

吉田　カツタイコウとジョセツは並べられないか。

藤田　目黒記念では、カツタイコウもジョセツも、同じ54で走ってジョセツが勝っている。

田中　高松宮杯での勝っぷりもいい。ここでは、メジロアサマ、ヤマニンウエーブを破っている。

藤田　秋はオータムHで、トーヨーアサヒの2着にきている。ジョセツの方が1㌔上だろう。

吉田　メジロアサマを破った力は、高く評価される。

藤田　ジョセツは60でいいでしょう。

西田　天皇賞、有馬記念を連覇したトウメイの64と比較しても、60はいいところだ。これにキームスビィミーは並ばないか。天皇賞2、4着だった。それに秋はハリウッドTC賞にも勝っている。

——ではジョセツ、キームスビィミーが60㌔。次は。

筧　フイドールか。

西田　59でいいか。

田中　春の成績は抜群だが59では重いのでは。

各務　シュンサクリュウでは。

西田　シュンサクリュウはもう1㌔下だろう。

各務　京都記念を勝って天皇は4着だったが、キームスビィミーとの格付けは、ついているといえばいえる。

筧　フイドールとキームスビィミーは、2㌔差か。

西田　フイドールは春だけだからね。

筧　46年は春だけ出走したコンチネンタルが59でしたね。

西田　キームスビィミーと比較すると2㌔差はあるだろう。

田中　春には金杯、サンケイ大阪杯、鳴尾記念と重賞を三鞍勝っている。

——カツタイコウ、フイドールは59で並びませんか。

各務　フイドールの重賞3勝、カツタイコウが重賞2勝と秋の天皇賞3着。これは59で並べてもいいでしょう。

近藤　話はかわるが、春だけ走ったアカネテンリュウ、外国遠征していたメジロムサシがいるが、この両馬の格付けは、むずかしいと思うが。

吉田　国際化時代に入って、これからメジロムサシのようなケースは多くなるだろう。日本で走ってないからといって、これらの馬をフリーハンデの対象からはずすわけにはいかない。とにかくムサシは日本の代表として、アカネテンリュウは春の実力馬として、十分に考える必要はある。

田中　年間の成績からいけば、この二頭よりはジョセツの方が上だろう。

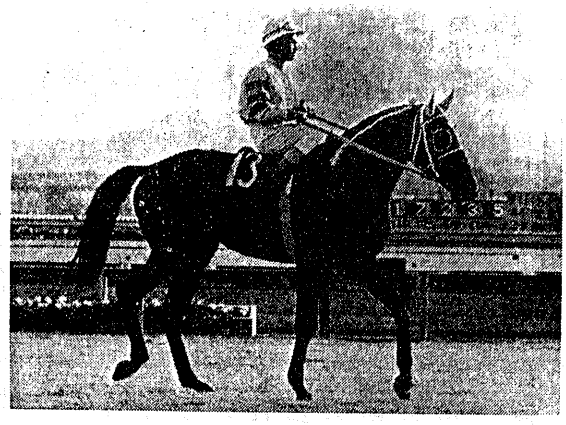
筧　メジロムサシは春、62㌔でオープンに勝ってから、ヨーロッパ遠征に行きました。アカネテンリュウは春だけで3戦1勝で、東京新聞杯では61㌔のトップハンデで勝っている。

吉田　ジョセツと並べるか。

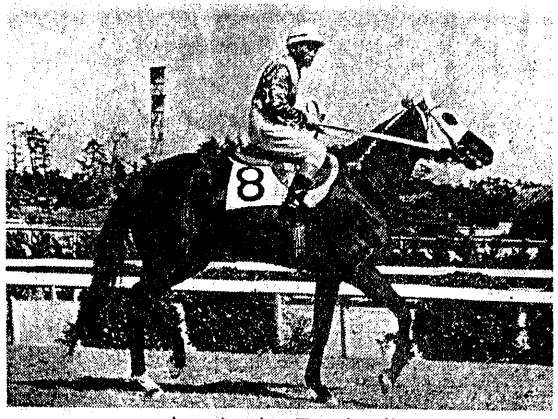
筧　実力的にはアカネテンリュウは、ジョセツの上でしょう。

近藤　メジロムサシもローレルの国際レースに推選されなければ、日本に帰って競馬し

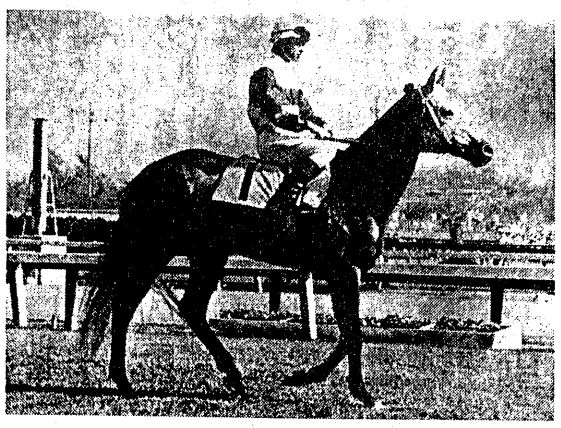
古馬



☆ヤマニンウエーブ



☆ベルワイド



☆メジロアサマ

ていたかもしれない。帰った場合の成績がどうなったか知るよしもないが、かなりの評価は必要だろう。なにしろ日本代表で行ったのだから。

吉田　両馬ともレースに走った数は多くないがね。

近藤　アカネテンリュウもメジロムサシも実力的にはジョセツよりも上かもしれない。

西田　とにかく、上位に入れる必要はあるだろう。

近藤　61か60か。

筧　61では。

藤田　メジロムサシは、どうなのか。

近藤　そこが難しい。とにかく、その馬の力を測る材料がないのだから。

吉田　キームスビィミーよりは上だろう。海外遠征で日本で走れなかったのだから。アカネテンリュウ、メジロムサシは、同じでいいのでは。

近藤　メジロアサマ、メジロムサシは、どっちが上か。同じと思うのだが。

吉田　47年度についていえば、評価の材料はない。

田中　代表馬として遠征して、その成績が体調がよくなかったとはいえ、もう一つぱっとしなかった。

西田　メジロムサシの評価は下げてもいいかもしれない。

筧　アカネテンリュウも春の天皇賞は3着で、天皇賞にはついに勝てなかった。

吉田　メジロアサマは有馬記念で四歳馬に負けてはいるが、メジロムサシ、アカネテンリュウはそれより1キロ下の60でいいのでは。

――　60はジョセツ、キームスビィミー、アカネテンリュウ、メジロムサシの四頭。59がフイドール、カツタイコウの二頭。では次の58に入る馬は。

西田　シュンサクリュウとニホンピロムーテーがくると思うが。

田中　ロングワンは、その1キロ下の57に入る。

西田　天皇賞2着のバッシングゴール、タマホープも58に入れていい。

近藤　バッシングゴールの中央場所の成績は天皇賞2着だけだが、あの2着は光る。

筧　最近はああいう逃げ足を持った馬は少ない。それを天皇賞でやったのだから。

近藤　ああいう胸のすくような逃っぷりというのは、見ているファンのためにもいいことだ。いい競馬でした。

筧　中山記念でアカネテンリュウを破ったトウショウピット、これは58に入らないか。

田中　宝塚記念のショウフウミドリは。

柴田　ニホンピロムーテーは、中日新聞杯以外は大敗している。58は重いのではないか。

田中　中日新聞杯は、メンバーも弱かった。バッシングゴールも58は重い。1キロ下げて、この二頭は57で並べたい。

西田　ニホンピロムーテーは大敗といっても、目方を負担してのものだ。58に入れてもいい。

筧　バッシングゴールの天皇賞2着も高く評価したい。

近藤　バッシングゴールが新潟で、関屋記念、新潟記念と連勝した相手はかなり強いが、天皇賞2着は多分に展開に恵まれたところがある。現に有馬記念では、タクマオーという同型馬がいたために惨敗している。そう評価はできないだろう。57でいい。

田中　ニホンピロムーテーも58では高すぎる。

近藤　カツタイコウあたりから見ると、ニホンピロムーテー、ショウフウミドリは2キロ差はある。57でいいだろう。

――　それでは58はシュンサクリュウ、タマホープ、トウショウピットの三頭です。

（以下略）

三歳馬

関西

ローレル牝馬でも56

柴田　三歳馬は、西からどうぞ。

――　西のトップは、キシュウローレルで文句のないところと思う。戦績は4戦4勝でデイリー杯三歳S、阪神三歳Sと重賞2勝。デイリー杯三歳Sでは、1分22秒2の日本レコードを出した。これは高い評価ができる。

西田　56でいいだろう。46年はヒデハヤテが56だった。

藤田　47年は東西とも、牡馬の傑出馬がいない。

田中　ヒデハヤテが東西単独トップになったのは、阪神三歳Sの勝ち時計がよくて、それが評価されたからだ。

柴田　とにかくキシュウローレルは、勝ち方もけた違いだ。

各務　46年はヒデハヤテが56だったのだから、キシュウローレルも56で仕方がない。

筧　46年は、牝馬のシンモエダケが55だった。キシュウローレルも55でいいのでは。

各務　45年は、6戦6勝のロングワンが56だった。

田中　不敗のキシュウローレルも56でいい。

柴田　二番手は6戦3勝のクリオンワード、4戦2勝で阪神三歳S2着のヨドヒーローの男馬二頭が55。

田中　異論のないところだ。ケイリュウシンゲキがその下で54か。

柴西　ケイリュウシンゲキは、未・未から上がってきた馬だ。5戦2勝で阪神の三歳牝馬特別に勝った。

西田　54でいい。

柴田　2戦2勝で函館三歳Sを勝っているタカヨシタイホウは、55に入らないか。

各務　タカヨシタイホウは北海道

で走って、あと出走していない。

田中　タカヨシタイホウは、54でいいですよ。

――他に54の馬はいませんか。

西田　4戦1勝だが阪神三歳S3着のディクタボーイがいる。

各務　4戦2勝で京都の新馬戦と中京のかえで賞で、いずれもレコード勝ちした、ナイスシャダイも入れていい。

田中　牝馬のバンブーミサが3戦2勝、ハクリヨウの仔で8戦3勝している、ハクサンホマレもいい。

西田　54の馬はこれだけだ。

（以下略）

関東

トップは牡が2頭

――東は何がトップになるか。

吉田　ユウシオとレッドイーグルを56でトップにしたが。その他上位にはナスノチグサ、マミーブルーといった活躍した牝馬も入るが、ちょっと下だ。レッドイーグルは3戦目で朝日杯三歳Sに勝ったが、朝日杯三歳Sを重くみるなら、レッドイーグルがトップでユウシオはその次になる。

筧　ユウシオは9戦5勝の成績があるが、この二頭は56のトップで並んでもいい。

藤田　西のトップがキシュウローレルで56なら、東のトップは1キロ下の55が妥当ではないか。

筧　西が56では東は、その1キロ下の評価だと思う。

西田　三歳で日本レコードで走ったということは、これは大変なことですね。

近藤　レッドイーグルはキャリアが浅いこともあって、ユウシオ、レッドイーグルとも、北海道と朝日杯の三歳Sの勝ち馬だから、ともに並べて55でいい。

――東のトップはユウシオ、レッドイーグルで55キロ。

各務　次の54には中京のオープンで3着に破れたがシカゴがくるのでは。

吉田　東京・新潟・福島で、それぞれ2回走って6連勝。中京で7連勝はならなかったが、7戦6勝のシカゴは文句ない。

近藤　7戦5勝、2着2回のナスノチグサも入る。

筧　朝日杯三歳Sで敗れたとはいえ、それまで5連勝したマミーブルーもいい。

吉田　朝日杯三歳S2着のケープコードも入る。同じく3着の抽選馬ダイニマツレンも54にならないか。

藤田　ケープコードは54でいい、戦績も9戦して3勝している。

近藤　54には6戦3勝して、寒菊賞、ひいらぎ賞と特別2勝したサンボウも入れていい。

藤田　ダイニマツレンは、1キロ下の53でいいと思うが。

近藤　そんなところだろう。

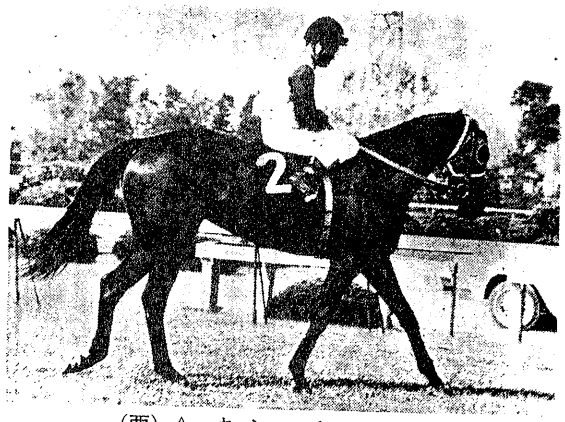
筧　53にはカミノテシオ、クリアスカ、ニットウチドリなどの2勝組が入る。

藤田　あとニューサント、ベルロイヤルといったのも2勝しているので、53のところに入れた。

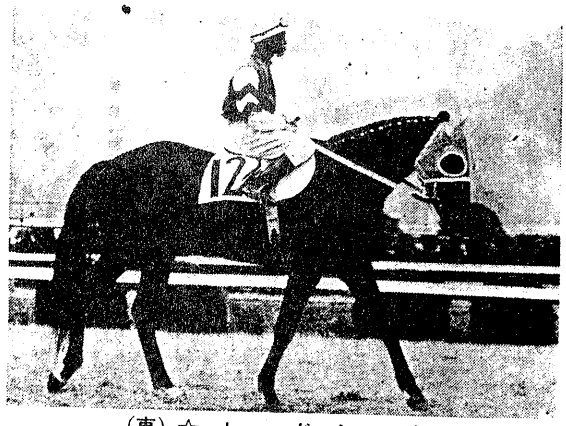
――では53はカミノテシオ、クリアスカ、ベルロイヤル、ニューサント、ニットウチドリ、ダイニマツレンの6頭です。

（以下略）

三歳馬



（西）☆ キシュウローレル



（東）☆ レッドイーグル

（東）☆ ユ　ウ　シ　オ

'72年のフリーハンデ

※ 牝馬
㊚ 父内国産

4歳馬

63		イシノヒカル
62		ロングエース
61		ランドプリンス
60		タイテエム
57		ハクホオショウ
		ランドジャガー
56	※	アチーブスター
	㊚	スガノホマレ
		ソロナオール
		タイホウシロー
		ヒデハヤテ
	※	シンモエダケ
55	※	タカイホーマ
	※	タケフブキ
	※	トクザクラ
		ハマノパレード
		ユーモンド
54	㊚	シンザンミサキ
		スズボクサー
		タケデンバード
		ノボルトウコウ
		フェロースピード
		マサイチモンジ
		マーチスセカンド
53		アラカワタンユウ
	抽㊚	イナボレス
	※抽	カンツォーネ
	※	キョウエイグリーン
		クリイワイ
		セントマーチス
		タイバブー
	※	タイラップ
		トーヨーアサヒ
	地	ワイエムチャイナ
52		アーチデューク
		インタープレイン
		ギャラントモア
		クラチカラ
		セカンドブラザー
	※	センコウミドリ
		トルーエクスプレス
	※㊚	ハジメローズ
		ハーバーマモル
		ファインダイヤ
		ブランスキー
		ボールドファイア
		マルブツサンド

(計47頭)

古馬

62		ヤマニンウエーブ
61		ベルワイド
		メジロアサマ
60		アカネテンリュウ
		キームスビィミー
	※	ジョセツ
		メジロムサシ
59		カツタイコウ
		フイドール
58		シュンサクリュウ
		タマホープ
		トウショウピット
57	㊚	オンワードガイ
		ショウフウミドリ
		ゼンマツ
		ニホンピロムーテー
		ハスラー
		バッシングゴール
		バンライ
		ロングワン
56		エリモカップ
		コーヨー
		フアストバンブー
55	※	カツヤヨイ
		キクノハッピー
		クリシバ
		ケイシュウ
	㊚	シングン
		スインホウシュウ
		スリービート
		ダイセンブー
		タクマオー
		ダッシュリュー
	※	ナスノカオリ
54	※	クリケント
		サクラオンリー
		シネマゴースト
		シバクサ
	㊚	ジーガー
		スイジン
	※	セブンアロー
	※	フセノスズラン
	※	ラファール
		リキエイカン
53		ジンデン
		スイノオーザ
	※抽	タイヨウコトブキ
	※	タカラローズ
	※	マウントワールド
		メジロスイセイ
		ヤマアオバ

(計51頭)

3歳馬(西)

56	※㊚	キシュウローレル
55		クリオンワード
		ヨドヒーロー
54		オカブリンス
	※	ケイリュウシンゲキ
		タカヨシタイホウ
		ディクタボーイ
		ナイスシャダイ
	㊚	ハクサンホマレ
	※	バンブーミサ
		ファーストワイエス
53	※	クインマハール
		シャダイオー
	㊚	シルバーランド
		ジンムホマレ
		ヒデショウグン
		ヒデタイガー
		ベリシオ
	※	ミスシロバト
		ライトロング
52	㊚	アカダケ
	抽	アマツカゼ
		キネヤタイヨウ
	※	スイートバンズ
		センコウトラック
		ニシキング
	※	ニホンピロピース
	※抽	ハニーオックス
		ロングアロー
51		ウメノウオー
		エムティマッハ
		エースジュニヤ
	※	キョウエイアリス
		キヨノサカエ
	※	ケイスパーコ
		スモールテスコ
		タイキ
		ダルジン
		テューダーオー
		トーシュン
		ニホンピローレオ
	※	バンブーカガリ
	※㊚	ホウシュウデール
	※㊚	ホウシュウムサシ
		マチカネハチロー
		ヤシマタイガー
	㊚	ラズモフスキー

(計47頭)

3歳馬(東)

55		ユウシオ
		レッドイーグル
54		ケープコード
		サンボウ
		シカゴ
	※	ナスノチグサ
	※	マミーブルー
53		カミノテシオ
		クリアスカ
	抽	ダイニマツレン
	※	ニットウチドリ
		ニューサント
		ベルロイヤル
52		アーレス
		オヌールターフ
		キクカギョクリュウ
	※抽㊚	キクノツバメ
	※	クリノナミ
	※	サクラジョオー
		タケデンパワー
		トシマヒカル
		ナスノオーカン
		ハードファクトン
		マルミヨ
	※	レデースポート
		ロッキーダイヤ
51		アンバサダー
		エイバーシア
		カネイコマ
		ゴールデンターナー
	※	シャダイブリマ
		シンジェット
		スピードリッチ
		セーヌステイヤー
		タケホープ
	㊚	トラックタイガー
	※	ナスノメロディ
	※	フミズキ
	㊚	ブルスイショー
	※	ボストンクイン
		ホワイトフォンテン
	※	マリンバトー
	※	ミマツクイン
		メイジヤマト
	※	リンネルンド
		ロイヤルスプリンタ
		ワイオミングレッド

(計47頭)